

埋文だより

第95号

令和7年9月30日発行



重要文化財認定 山ノ口遺跡出土品



山ノ口遺跡出土品

山ノ口遺跡（肝属郡錦江町馬場）の出土品が国の重要文化財に指定されました。当該遺跡は、昭和33～36年に河口貞徳氏が主体となって発掘調査が行われた南九州の弥生時代中期を代表する標式遺跡です。環状の配石遺構の周囲に、岩偶などの軽石製品や孔が開けられた多数の土器などが出土しており、祭祀遺跡として学史的にも著名な遺跡です。

目次

- ・ 祝！重要文化財認定 山ノ口遺跡出土品… 1～2
- ・ 発見！発掘速報…………… 3～5
- ・ みて・さわって～考古学の世界～…………… 6
- ・ 令和7年度発掘調査予定遺跡…………… 7
- ・ 自宅で遺跡を見学しよう…………… 8

やまのくち

山ノ口遺跡について

山ノ口遺跡は、大隅半島の肝属郡錦江町馬場に所在し、大隅半島南端の佐多岬から北へ約 2.5km の位置にあり、鹿児島湾に面しています。現在は鹿児島湾側に石碑が残るのみで、周辺は田畑となっています。

本遺跡は昭和 33 (1958) 年 7 月, 砂鉄採掘の際に発見されました。近くの神川小学校教頭・神田三男氏が遺跡の存在を報告し、採掘

による破壊を防ぐため、県の幹旋と大根占町の援助を得て発掘調査が行われました。調査には神田氏や大根占中学校教頭・坂本貞夫氏の協力があり、玉龍高等学校考古学部が昭和 33 年 12 月から昭和 36 年 5 月までの間、3 次にわたり発掘を実施しました。当時顧問であった河口貞徳氏の指導のもと、同校生徒や地域住民も参加しました。調査は、第 1 次が 11 日間（年末年始を挟むため実働はさらに少ない）、第 2 次・第 3 次はいずれも 3 日間という短期間で行われ、記録と遺物の確保が急務でした。発掘前にすでに一部は破壊されていましたが、神田氏らが出土状況を詳細に記録し、散逸を防ぐため遺物を回収したことで、一部ながらも貴重な資料保存が可能となりました。

山ノ口遺跡は、幅 20m 余・長さ 60m 余の旧砂浜上に構築された、大小の環状配石から成る弥生時代中期の祭祀遺構です。軽石を円形に並べた配石遺構が 9 基検出され、伴出した岩偶などの軽石製品や、多数の孔開き土器が出土しました。これらは当時の精神文化を知る上で重要な資料であり、平成 27 年に県指定文化財となりました。出土土器の大半は、南九州を代表する弥生時代中期の土器様式「山ノ口式土器」で、その標式資料としても価値が高いものです。中には、開聞岳起源の暗紫ゴラ（約 2,100 年前）が土器表面に固着したものもあり、山ノ口式土器の年代決定や、共伴関係にある土器型式の編年研究にも極めて重要な役割を果たしています。現在もその成果は、南九州の弥生時代研究の基礎資料として高く評価されています。



山ノ口遺跡出土品 ＊P8 で出土した軽石製品の 3D・AR 体験ができます。



山ノ口遺跡位置図

発見！
発掘速報

旧石器時代の人々の痕跡

みなみずがさこ
一南水ヶ迫 B 遺跡（志布志市志布志町帖）一

南水ヶ迫 B 遺跡は、志布志市志布志町帖にあり、国道 220 号油津・夏井道路建設に伴い、令和 5 年度から発掘調査を行っています。令和 7 年度は、昨年度までに調査した地層よりさらに下層にある、旧石器時代（約 2 万年前）の地層を主に調査中です。

地表から約 3～5 m 下がった地層からは、黒曜石・頁岩などの比較的硬い石材を用いた石器（主に狩りに用いたと考えられるもの）や、敲石・磨石（主に石器加工や食料加工に用いたと考えられるもの）などが出土しています。また、石器を作る際に石材を打ち割る時に生ずる剥片や碎片などが多く密集する箇所（遺物集中部）が見つかりました。これらに用いられた石材は、遺跡の周辺では調達できないものが多いため、その産地は県内にとどまらず、県外のものも含まれる可能性があります。

このように南水ヶ迫 B 遺跡では、大昔から人々の営みがあったことや、営みを行うために広範囲的な交流があったことが今回の発掘調査でわかってきました。今後の整理作業や報告書作成作業を通して、これまでの成果をしっかりとまとめていきたいと思っています。



発掘調査風景（遺物集中部）



遺物集中部検出状況



人骨は何を語る？

しもはら
—下原遺跡（志布志市志布志町帖）—



下原遺跡は、志布志市志布志町帖に所在し、令和7年5月から発掘調査を行っています。本遺跡は、宮崎県との県境に近く、西側に志布志市街、南側に志布志湾、北東方向には標高 270mの陣岳^{じんがく}がそびえ、その麓の標高約 50mの台地の東側に位置しています。令和5年度から調査を行っている南水ヶ迫B遺跡とは直線距離で約 400mと近距離にあります。

本遺跡では、遺跡の調査区中央部分が深く落ち込むような地層の堆積が見られ、昔は谷のような地形になっていたと考えられます。旧石器時代、縄文時代早期、縄文時代中期、中世、近世の遺構、遺物が発見されています。

旧石器時代では、調理施設と考えられる礫群^{れきぐん} 1 基が発見されました。

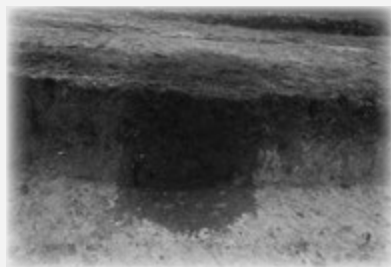
縄文時代早期では、落とし穴^{まえばらしき} 1 基、集石^{せきぞく} 2 基を発見し、前平式土器、石坂式土器、打製石鏃^{とうばん}、スクレイパーが出土しました。

中世では、近畿地方から持ち込まれた東播系須恵器や中国製の輸入磁器である青磁^{せいじ}や青花^{せいか}、明の時代の銭貨である洪武通宝^{こうぶつほう}が出土しました。

近世では、土坑墓が 2 基検出され、そのうち 1 基からは人骨とともに 16 ～ 17 世紀に中国の景德鎮窯^{けいとくちんよう}、漳州窯^{しょうしゅうよう}でつくられた青花が 2 枚出土しました。人骨は大腿骨^{だいたいこつ}など大きな骨を下に置き、その上に頭蓋骨^{ずがいこつ}が置かれた状態で出土しました。おそらく亡くなった人を一旦埋葬し、骨だけになった後に、その骨を並べて埋葬（再葬）したと考えられます。どのような経緯で亡くなったのか。なぜこの場所に埋葬されたのか。埋葬した人の心情はどうだったのか。様々な思いが浮かびます。



礫群検出状況



落とし穴検出状況



集石検出状況



土坑内人骨出土状況



土坑墓出土青花



「石」を利用した遺構

きたやま
—北山遺跡（阿久根市山下）—



北山遺跡は、令和2年度から発掘調査を行っています。これまでに北山遺跡でみつかった、「石」を利用した遺構を紹介します。

右上の写真は、手のひらサイズの石から、力を入れないと動かせないほどの大きさの石が、列状に発見された様子です。その下の写真は、人の頭ぐらいの大きさの石を円形に配置してある遺構です。

これらの2つの遺構の周りからは、薩摩焼や、熊本・佐賀で作られた近世の陶磁器が見つっています。どちらの遺構も何のために作られたものなのかわかっていませんが、周辺の遺構や遺物を検討しながら、今後調査を進めていきます。

北山遺跡では、これまでの調査でも石を利用した遺構がいくつか検出されています。左下の写真は、縄文時代早期の「集石」という調理に使われたと考えられる遺構です。また、右下の写真は、中世の溝状遺構の底に石を敷き詰めた遺構です。

このように昔の人は、自分たちの身近にある石という素材を利用して、様々な形態の遺構を作っていたことが分かります。私たちが生活している周りにも石を利用した建物などがたくさんあります。身近なところで石がどのように使われているのか、見つけながら歩いてみるのも面白いかもしれません。



石積み遺構検出状況



集積遺構



集石遺構



集積遺構

みて・さわって ～考古学の世界～

県立埋蔵文化財センターでは、児童・生徒・学生をはじめ、教職員の方々や市町村の埋蔵文化財担当職員の皆さんを対象とした研修や体験学習を毎年開催しています。

埋蔵文化財センターで実施の各種研修

7月から8月にかけて、教職員の方々を対象に「フレッシュ研修」「パワーアップ研修」「先生のための考古学講座」を実施しました。施設見学や出土遺物の観察、火起こし体験などを行い、地域の歴史や文化を知って・見て・触れることで、多くの参加者が考古学について興味や関心を持たれたようです。

また、7月18・19日には埋蔵文化財技術研修講座を開催しました。18日は霧島市教育委員会と連携し、講義に加えて隼人塚や国宝・霧島神宮を見学しました。19日には報告書作成時のレイアウト作業について、紙によるレイアウトとPCによるレイアウトに分かれて実習を行いました。

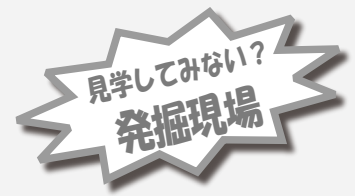


ワクワク考古楽（授業支援）

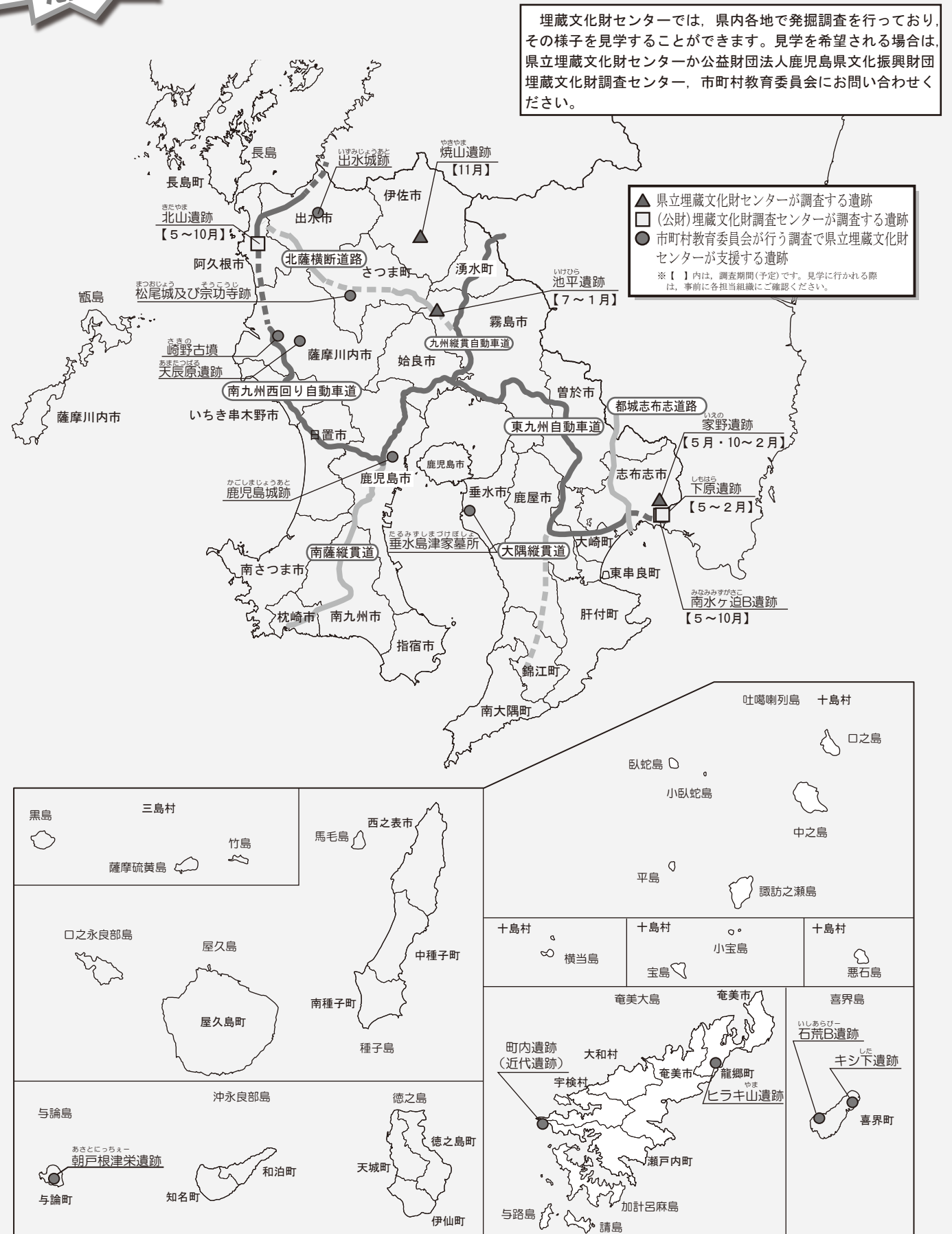
当センターでは、地域の遺跡の発掘調査で見つかった出土品など、本物の資料を活用した授業支援（出前授業）を実施しています。今年度も北は出水市から、南は和泊町まで県内各地からご依頼をいただき、7月末時点で986名の児童・生徒へ授業を行いました。

ワクワク考古楽では、職員が学校に出向いて授業を行ったり、地元に残る史跡の説明を行います。授業に参加した学校の児童・生徒からは、地域の詳しい歴史を学んだり、本物の土器や石器を手にとって実感することで、文化財への興味・関心が高まった様子がうかがえました。

また、このほかにも本物の土器や石器、陶磁器などを学校に貸し出す「まいぶんキット貸出事業」も行っています。まいぶんキットは、縄文土器だけでなく弥生土器や古代～中世の遺物など、実物と説明書が一緒になったセットです。詳しくは、埋蔵文化財センターのホームページで紹介していますので、ぜひご活用ください。



令和7年度 発掘調査予定遺跡



自宅で遺跡を見学しよう（3D・AR体験）

現在当センターでは、遺跡そのものや、そこで見つかった遺構・遺物を3DデータにしてWeb上で公開しています。3Dデータにすることで、遺構・遺物を立体的に見ることができ、発掘している遺跡の様子をリアルに感じることができます。

また、AR (Augmented Reality, ^{かくちょうげんじつ}拡張現実) 技術により、遺跡で発見された遺構や遺物を、スマートフォンやタブレットの画面内に現実の景色と重ねて表示し、実際に中を見学をしているような体験をすることができます。

以下のQRをスマートフォンやタブレット等で読み取り、遺構や遺物を目の前でご覧ください。当センターホームページでは、今回紹介したデータ以外のデータも公開していますので、ぜひアクセスしてお楽しみください。

※ スマートフォンやタブレットのOSのバージョン、機種等によってはご覧いただけないことがあります。

※ ARをご覧いただくためには、「STYLY」という無料アプリが必要です。QRを読み込むと、インストール画面に移行しますので、案内に従い操作をしてください。

山ノ口遺跡岩偶



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

当センターのホームページ及びフェイスブックは右側のQRからお入りください。

Instagramは、(https://www.instagram.com/kago-shima_maibun)からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第95号

発行日 令和7年9月30日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp